



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



「NAKABAN LEARNING PROJECT」で「手にする4つのこと」

— Change (変革) ,Challenge (挑戦) ,Continue (継続) —

今日は七十二候でいう「雷乃収声」(らいすなわちこえをおさむ)。この頃より雷が鳴らなくなるということです。益々、秋が深まっています。

9月7日より、「学び直し」「全校生の、全校生による、全校生のための、前学年までの総復習、誰一人、取り残さない」NLP (NAKABAN LEARNING PROJECT) が始まりました。そして、それをやり遂げた人だけが手にする4つのことがあるという話をしています。保護者の皆様は、それが何だと思われませんか。それは、①学校の学習がもっと楽しくなる「知識」②一人でも学習できる「学習習慣」③最後までやり通せたという「自信」④新しい学びへの「知的好奇心」を手に入れたことだと考えています。少し詳しく言うと、①の学校の学習がもっと楽しくなる「知識」とは、どのようなものなのでしょう。学校の学習は、子供の成長に合わせています。単純に言うと、学習の内容は「易から難」、当然、1年生よりは2年生、2年生よりは3年生…というように、学年が上がるにつれ学習の内容は難しくなっていきます。しかも既習の学習内容が次の学習の理解に確実に繋がっていきます。つまり、前学年までの学習内容は今の学習内容を理解するのに必要なものなのです。②の一人でも学習できる「学習習慣」とは、どのようなものなのでしょう。学習する場合、誰かに聞いて答えを知ることが多くあるかもしれませんが。学校の授業でも、授業の中の友達の発言、先生のまとめの話等で、それらを理解することは多々あると思われます。しかし、自分で考え、問題を解いた場合、いつでも、どこでも、誰かに聞くことは難しいものです。その答えを確認する方法は、聞くのでもなく、誰かに合っているかどうかを見てもらうのでもありません。自分で確認することができないといけません。やりっぱなし、やったけど確認できない、正しいかどうか分からないということでは

困ります。実は、誰かに答え合わせをしてもらうことは、子供達にとってはとても楽なことなのです。自分で答えを確認できる力は相当の訓練が必要だということです。このことは、高学年であっても1年生の問題集の答え合わせが完璧にできないという事実が雄弁に物語っています。③の最後までやり通せたという「自信」とは、どのようなものなのでしょう。1年生から3年生までの問題集を重ねると約3cmの厚さになりました。当然、6年生までの分となると問題集の厚さは約2倍、6cmを越えてくるでしょう。やり終えた問題集のこの量を見たとき、やりきった満足感、達成感は自ずと自身の心に溢れてくると考えます。また、今の学年の問題集を終えれば、今の学年の学習の大半が分かったことを意味します。さらに次の学年の問題集に挑戦している児童は次の学年の学習を自ら始めている訳ですから、「学びに向かう態度」は実に素晴らしいものです。そこには達成した者だけが見ることができる景色が広がっているのです。このことは「自信」以外の何物でもないと思います。④の新しい学びへの「知的好奇心」とは、どのようなものなのでしょう。知らないことを知る、ぼんやりしていたものをはっきりと理解することは、「知的好奇心」を働きます。新たな疑問が生まれ、知りたい、知れば新たな疑問が生まれ、「学びの好循環」が動き出します。小学生に問題集なんて？と思われる保護者の方もおられるかもしれませんが。でも、提出してくれる児童の目は真剣そのものです。大変嬉しく、頼もしく感じます。ご家庭でもどうかあたたかい声援をよろしくお願い申し上げます。

感染者数の減少が報じられ、喜ばしいことですが、油断せず、引き続き、「恐れず、正しく、適切に」対応し、今後も感染症対策(朝の検温、マスクの着用【不織布のマスクが強く推奨されています。】、手洗い、手指の消毒、3密回避等)を徹底します。保護者の皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症についてご心配なことがございましたら遠慮なくご相談ください。中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。